

平成30年度第1回いの町総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成30年12月19日 開 会 午前10時

2. 場 所 いの町役場 401会議室

3. 出席者

町長 池田 牧子

教育委員会

教育長 藤岡 孝雄

教育委員 日向 國雄、山中 ゆかり、渡邊 勝喜

岡田 正博

職員

総務課長 土居 浩

総務課長補佐 土居 由丘子

事務局 教育次長 山崎 泰代

吾北・本川教育事務所長 岡村 芳子

事務局次長補佐 濱田 朋一

事務局次長補佐 天野 里香

副参事 乾 孝治

事務局係長 曾我部知枝

総合政策課長 筒井 誠人

4. 議事

1. 高知県高等学校再編計画における吾北分校活性化への支援
2. 菊池学園これまでの取り組み及び今後について
3. 休校休園施設の利活用等について
4. 業務改善（働き方改革）のための取り組み
5. 中山間の学校児童生徒の減少対策
6. その他

会議

土居 : それではただいまから、平成30年度第1回の町総合教育会議の方を始めさせていただきます。

それでは、開会に当たりまして町長の方から一言ごあいさつ申し上げます。

町長 : おはようございます。30年度第1回の総合教育会議という事で、数日前より非常に寒さが厳しくなってきましたが、日頃から教育行政に対しまして皆様取り組んでおられますことに対しましてお礼申し上げます。本当に今、少子化の中で危機的な状況を感じられています。本川、吾北分校のこともお聞きしてきました。皆さんが関心を持っておられる子育て支援にたいしましても出来るところからすすめさせていただきますので、この総合教育会議において皆様のご意見を賜りながらより良い方向へ、いの町の未来を担う子供たちの未来につながるような取り組みを行ってまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

土居 : それでは早速議事に入ります。本日の議事においては次第とは異なりますが、総合政策課分から、その後1から4について事務局からまとめて説明をしていただき、その後意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。では、議題5番について総合政策課より申し上げます。

筒井 : 皆さんおはようございます。総合政策課長の筒井です。よろしく申し上げます。総合政策課は今年4月に機構改革でできたものでございまして、主な業務は総務課の企画係、それと振興計画、各種計画、公共交通、統計や広報、ふるさと納税を担当しております。それから産業経済課が担当していました移住促進の業務、そして、新たな業務として、町の課題に対しまして各課横断的に職員でプロジェクトチームを結成して、様々な課題に対応していく、それから旧の町村単位での各総合支所単位の地域振興、そういった中で未来を考える会の中で、ご意見を聴取といったこともやっております。その中で、プロジェクトチームでやっていることについてご説明させていただきます。いの町

公式インスタグラムの資料をお願いします。こちらは情報発信のプロジェクトチームです。いの町の魅力発信のことについて話し合っています。SNSを利用して情報発信をして行こうと思っています。それで12月1日から、いの町の公式HPにアップしております、その情報がこの1枚目です。インスタグラムにより、にこ淵などを紹介していますが、いわゆるハッシュタグと言われます検索のキーワードをつけて情報を見やすいように考えています。フォロワーも増えてきているのでいの町の魅力を様々な情報をいただきながら発信していきたいと考えています。情報発信の方法は広報でありますとか、歴史、食、商品とか掲載しておりますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。続きまして、移住促進のプロジェクトチームです。これまで、チーム会を開催しております、有効な施策がないかと協議しています。空き家調査、いの町内に空き家がありますがこその調査や各地区の区長さんに協力していただき現地調査しています。貸していただける、売っていただける空き家の登録、利用したい方の登録をしてマッチングしたら入っていただく。空き家の提供とございますが、合計46でそのうち、現在貸せる状態が6戸という状況です。空き家の希望者が多い中で確保が厳しい状態です。したが移住の相談者数と空き家の状況です。その次のページが移住者数です。左側が年度別の世帯構成です。町で改修して移住者に貸し出すという制度の検討も行っています。空き家の所有者には固定資産税を町が10年間お支払いするという制度です。そのほかにも、ポスターやパンフレットを作成して、移住フェアでPRしています。続きまして、少子化対策のプロジェクトチームです。いの町の方では少子化対策のアンケート調査の結果を基に実施計画を昨年度策定しています。結婚、妊娠、出産、働き方の4つの事業の新たな検討をしています。この中の出会い、結婚のステージにクローズアップして検討しています。異業種交流会で、いろいろな女性を目線でのご意見をいただくといったことを考えております。婚活イベント的なことも考えておりますので、そのことに対しても意見を頂けたらと思っております。あくまでも検討内容でございますが、340万未満の方に住居等の費用に対する補助制度が国にありますので、そのようなことが出来ないか検討もしています。続きまして、ネット環境です。ブロードバンドの未整備地域への要望もいただきまして、様々な検討も行っています。10月には代表の方に現状報告をさせていただきました。昨年11月にはブロードバンド整備に民設方式にたいする補助制度や補助率のかさ上げに対しまして総務省に容貌をしま

して、総務省から詳細は調整中ですが、31年度から、それまで町が整備する補助しか無かったんですが、事業者が整備することに対して町が補助することも補助対象にするような制度が創設される見込みだという通知がありました。11月にもそうした制度の中で、補助対象になりますのが、過疎や辺地等ですが、補助率の一定案がありますが、その嵩上げ等要望もいたしまして、来年年明け1月くらいに内容が示される予定です。町の方としましては、いの町の振興計画の実施計画がございまして、3年ごとの事業計画をするものですが、その中に盛り込んでございます。そうした国庫補助の内容も研究しながら実施してまいりたいと考えております。ご説明は以上です。

土居 : 以上で総合政策課の説明が終わりました。何かご質問等がございましたらお願いします。

渡辺 : 中山間の児童生徒の減少というのが、吾北本川地域にしてみると、非常に称し高齢化が進んでいる。危機的な状況と認識しています。少人数学校の良さをフルに生かして、中山間の学校の良さをふんだんにアピールしたいのですが、限度がありまして、吾北、本川合わせて、一つに統合してなお、小学校でどんどん複式にせざるを得ない状況になってきました。本川では山村留学等工夫もしておりますが、なお厳しい状況です。のちに語られる分校の問題も関わってきています。何とかせんといかんのですが、新しい総合政策課のもとで新たな政策が打ちだされてその成果が出ると期待したいと思っています。とりわけ、中山間で子どもが増えていくことがありませんので、「どうしても移住に期待をせざるを得ない。IターンUターンをしっかりと取り組まなければならない。子どもの確保をしていき適切な児童数を確保したいと思っています。今のお話の中で、移住について一つだけ、この間空き家バンクも順にすすんでいて、成果も上がってきていると思います。新たに5名で動いておられるのですかね、期待していますが、中山間の菊池学園を導入して、子育ての町、教育の町いの町をしっかりと選択肢の中に入れていただけるようなことがもっと表に出てはどうかと思います。庁内で検討していただきたい。移住担当に昨日話を聞きましたが、菊池先生の授業をご覧になりましたか。いえ、見ていません。菊池学園の色々な取り組みについて窓口として伝えてもらえますかと尋ねたけれど、まだ、プリントやその他で見たかもしれませんが、いの町はこういう子育てをしています、全国に誇らしいこんな取り組みをしていますとお言うような、チームが胸を張って窓口として宣伝してほしいと注文します。移住の点だけではないですが、官と

民がスクラムを組むことが非常に大事だと思います。先ほどの「数値は感が関わって得られた数字ですが、「実はそれ以外に民間の中で努力しての移住もあります。柳野で、移住された3組を町長に紹介しましたが、町の助けで移住したのありますし、民の力で移住になったものもあります。吾北分校に2名高校生が「います。このうちの1名が高3。それ以来赤ちゃんが生まれていなが、今は、高校生が2人、小学生が3人、保育園幼稚園が3人それ以下が3人、全部で11人。11人のうち9人は移住なんですね。そういう意味で都会の人たちに少人数の行き届いた教育、菊池のそばらしい取り組みを実感として伝えてほしい。ネットのことです。今日吾北の公民館でお話されるので、深入りしませんが3つ。1年半前に池田町長就任から半年くらい、ニュースで県内に整備されるという事でした。仁淀川町、大川、大豊出来ている。本川は置いてけぼりで、ショックを受けました。危機感を訴えたのが去年の9月議会前。その後のことで気になること。スピード感が足りないんじゃないですかという不満です。元々遅れていたわけで、経過さえない。このまま見捨てられるんじゃないかという危機感。見積もりにも半年。この夏から秋に一年経ちました。情報が無いままでしたので苛立ちや不満が非常に多かったですね。課長に電話でお願いして説明がないんですかとお願ひし、区長会で説明がありました。スピード感が足りない、31年度に予算が乗るかと思ったが、32年度。やるかどうかはまだ決まっていません。日だけた話という感情です。陳情だした責任者に進捗状況が無くて不信感がありますよという事です。3つ目、渡辺個人ですが、いの町に目に見えない対立があるのかな、それが不審になっているのか分かりませんが、池田町長時代の責任というよりも、長い町政をされた塩田町政時代から多くの業績の中で放っておかれた、吾北出身の議員も産業課も含めて、ネット環境は無理無理と。7年前に協力隊を受け入れたときに、ネットがこれかという意見でした。前に副町長が手直しをして少しましになっていたんですが。新しい担当は0からスタートかもしれませんが、住民からしたら、取り戻したい。町長にはリップサービスもしてほしい。やる方向です。まだ時間はかかる、なぜならという事を地域が納得するような話をしてほしい。よろしくお願ひします。

町長 : ありがとうございます。まず、移住政策をもっと表に出す。移住を担当する部署としては菊池学園の取り組み、そこをPRしていくべきと考えます。新採面接では口をそろえて言うのが、菊池学園です。そこが一番のポイントです。そこを職員がもっと理解していかなければ

ならない、柳野の皆さんのご努力、県内でもモデル地区だと思っています。島根の取り組み、地域を上げて取り組んでいる。参考にして進んでいきたいと思っていますところ。ネット環境についてです。実は総務省に行ったときに驚いていました。仁淀川町や大川村は、それより5年位前から動いているんですよ。昨年新聞に出たときは、昨年ではなく4、5年かけて整備に至っている。それだけ時間が掛かるという説明ができていなかったと思います。見積もりは、時間が掛かります。半年ではできないものです。これは業者にさせていただくしかない。しかも1社しか受けてくれない。そこで事業費を出さないと計画すらできない。という段階を踏んできました。その中で昨年も総務省に要望活動に行った、民設民営でも補助率を上げてもらえないか、と私たちがお願いしたことが、本年動いてくださったんですよ。総務省が。それが民設民営で。補助もそれまで1/3が1/2に。民設が使えなかったが、使える制度を創設してくださったんです。昨年の行動は無駄ではなかったと私は思っています。そして本年の要望活動に至りました。過疎債は本川、吾北しか使えない、伊野にも中山間がある。そういう事も訴え、さらに拡充できないかお願いしてきました。いの町としては、この一年間かけて、事業費も過疎債を全部使ってしまうと他の様々な事業に使えなくなってしまう。ネットだけにというわけにいかない。総務省が創設した制度には時限があると思います。次行量の平準化も考えてやっていく。スピード感が足りないというご不満があるかと思いますが、他の長も1年でできたものでない。同じスピードでやっている、しかも手を挙げようとしているこの事業は次の世代を見据えた事業です。今までの単なるネットだけではない、次に広がりがある事業であるので、今までやってきたものよりさらに利便性が加わる事業である。遅れた分、良い分がくつついてきたと思っています。

渡辺 : よく分かりました。ぜひそのようなお話をしていただけたらと思います。情報がないと疑心暗鬼になります。ありがとうございます。

山中 : 昨年の未来を考える会の時に本川の課題に特化して考える部署を設置してほしいという事でしたが、今年総合政策課が「設置されました。少子化対策を考えるという事ですが、本川に子育て世帯を増やすのは難しい。それに対する対策ですが、働く場所はない、産業を創設するようなどころに対しましても、すぐに結びつくのは時間が掛かるかなと思うのですが、実現に向けては、単発に会を開くのでは時間が掛かるので、住民の知恵を合わせて、密に会をして行かないと。総合政策

課も忙しいとは思いますが、熱い思いを持っているものもおりますので、そういう知恵も引き出しながら、話あw機会を持っていただきたいと思えます。

町長 : ありがとうございます。昨日も1年に1回の会だというような話がありました。決して1年に1度ではありません。なんととっても地区に足を運び皆さんに意見を伺うといった取り組みが必要であると思えます。本川の子育てが良かったというお話も聞きました。そういったところを表に出して移住に取り組まなければならない。特効薬はないと思えます。ただ、できることはできることで取り組みます。すぐにはこうかが出なくても一歩前に進まなければならないと思っています。会を頻繁に持たないと忘れてしまう。また、0になると先に進まないの注意していきたいと思っています。

岡田 : 6年ほど民生委員をしています。91歳のお年寄りがおいでなのですが、吾北・本川にバスで言っている。寺川まで行ってよかったと喜んでいます。そのなかの話で、本川の方は買い物は西条の方に行っていると。バスの便がある。西条からの便ほどでなくても便が確保できればと言っている。

町長 : 本川から西条ですね。西条側が寒風山の手前までバスがあります。いの町は長沢まで。西条から木の香まで来てほしいというのは難しい。いの町から西条側まで繋げないか、総合支所で検討してもらっている。西条からは4便だそうです。

土居 : 他にご意見ございませんか。以上で総合政策課は退席させていただきます。それでは議題1に移ります。教育委員会事務局からご説明をお願いします。

岡村 : 本計画案では高知追手前高等学校吾北分校は、基本的に継続という事となりました。31年度から35年度までの高校再編後期実施計画で示されていまして、2年連続して20人に満たなかった場合にその翌年から募集停止としている最低規模の基準については鬼呪8ンとしては尊重するが、分校は小規模が前提となっていることから、後期実施期間中はその取り組みの成果を検証しながら分校については基本的に継続するとしたものです。振興の具体策は、学力向上、進路の充実、部活動の活性化、地域との連携を掲げています。この中の部活動、地域は特にいの町との連携が求められるものですので、その進捗状況についてご説明させていただきます。2ページをお願いします。下線部分が主なものです。部活動の集中化として、ソフトボールの県大会優勝への取り組みとして中学校との連携した取り組みは既に実施してい

ます。専門的に指導できる指導員を中高に配置し、継続的な指導を可能とするものです。バドミントンも吾北中と吾北分校の合同練習、また、小中学校を含めた練習をすでに開始済みです。また、いの町の町有バスを活用し、伊野中学校や伊野南中学校との合同練習も始めています。30年度内に9回実施と聞いています。専門の指導員の配置や外部指導者を検討しています。伝統文化の継承についても総文に向けて検討するようございます。地域との連携で定期的な発表の場を設定していきます。地域との連携ですが、中学校と分校の日常的な交流を目指して、教員の授業の交流や吾北分校の日常的な活動を見せることとし、来年1月18日に小学校でも高校の紹介をするようです。安心できる生活環境です。31寄宿舍の年度の実施に向けて、吾北地区の町営住宅の活用に向けて取り組んでまいります。吾北産業課と和紙、楮をキーワードとして産業振興の中での関わりをしていきます。

教育長：スポーツ推進委員と連携するイベント、スポーツフェスタを開催し、分校の生徒さんにバドミントンの指導を小学生にさせていただくようにしています。吾北中の教員と分校の教員が交流して指導を行います。

乾：菊池学園の今後です。豊かな対話を通して学び続ける子どもを目指し全学校に掲示していただいています。それと八天大橋のたもとに看板を立てました。今年度菊池先生来庁の予定ですが12月までに組み込んだものです。町職員にもディベート研修をしました。健康祭りでも実施しました。11月にいの町の小規模の学校の3、4年生の交流会を開催しました。323名学び場に参加もしてくれました。実数161名の参加です。大人版の菊池学級56名です。子どもたちの学級ディベートも開催しました。コミュニケーション力向上のディベートを実施もしています。これを活かした話し合いの練習です。話し合いの深まりを体験しました。教員のこどもの変容を見る目の向上も取り組みます。全国学習状況調査で見ると、小学校で、自分に良いところがあるかの質問に対する肯定的回答81.5%でした。先生があなたのよいところを認めてくれますかの質問で86.2%、昨年度は92.0%です。子どもたちが自分の力を信じるようになっていきます。以上が成果ですが、課題です。学校間、学級間の差がある。ここをどうしていくか、町全体のシステムが構築されていない。役場の職員含めたPRが必要であると思います。そして、いの町として目指す就学前からの生きる力としての10の姿、5つの領域について取り組むことを基にしました。基礎学力の定着・向上が図られれば、知識・技能が習得できる、自尊感情が高まれば学びに向かう力や人間力の涵養につながる、

コミュニケーション力が向上すれば、思考力・判断力・表現力等の育成が図られる。そしてそれが主体的・対話的で深い学びにつながる。それがいの町の目指す姿になる。これを園、学校の取り組みに設定する。これにリンクした形で取り組んでいく。研修においてもこの菊池学園の考え方をベースにするようにする。寺子屋は時間外ですが、働き方改革も考慮して勤務時間内の実施も考えています。地域に知っていただく活動も考えていきながら、これを町全体の取り組みにしていきたいと考えているところです。

浜田 : 休校・休園施設の利活用についてです。学校施設というのは地域の貴重な財産ですが有効に活用できていないという状況です。画工施設は二塚な公共施設で思い入れもありシンボリックな存在で地域コミュニティの憩いの場にもなり得るものです。分類としまして小中ありますが廃校が小学校4校、休校が小学校9校、中学校が2校です。4月から勝賀瀬小は日吉学園開校の予定です。出来地は木蓮の会、山水は地域防災コミュニティセンター。中央小学校は活性化協議会利用。休校は健康体操やパソコン教室等様々な活用がされています。町としまして休校利活用は有効な可能性がある校舎につきましては、地域に町の方針を説明しているところがございます。地域の希望がありましたら、協議させていただきまして、必要な施設整備も含めて検討し、地域により運営していただく。特に地域で希望がない場合は、条件付きで公募を行い、応募団体での利活用の可否について合意に至った場合はその団体にお貸しするという流れです。現在の説明会の状況は柳瀬小で11/27に行い、三瀬中については昨日行いました。施設の有効活用について地域とともに考えていきたいと思っています。

池 : 私の方から、教職員の働き方改革についてご説明します。まず、1枚目、まず現状ですが小学校と中学校の状況をまとめておりますが、下記休業中も部活動の指導で時間外80時間を超える教員があります。10月の現状ですが、厚労省が過労死ラインとされる月80時間を超える教員が小学校では26人、中学校では8人います。学校単位で見ましても、平均で超えている実態もありまして、職員同士で業務を平準化しても今の課題が補えていないという状況です。全国的にも同様の状況でして、中教審が学校における働き方改革の緊急提言が出されました。これまでは学校の方が出退勤の管理ができていなかったが、いの町独自のシステムを導入しまして先ほどのような実態が分かってきました。平成12/29の中教審では学校以外が担うべき業務、学校業務ではあるが、必ずしも教師の業務でなくてもよいもの、教師の負担

が可能な業務という事で多くの指針が定められております。改善をすすめるための新たな取り組みですが、菊池学園も働き方改革の側面もあります。学級の子ども同士の関係性が良ければトラブルもなく、教員の負担が軽減されることとなります。学びに向かう時間の確保ができます。町は、長時間労働をしている先生対象に負担とを感じる業務について8月にアンケートを実施し、課題の洗い出しをしました。10月には各校巡回し、各校に町負担の多くの支援員のヒアリングも行いました。11月には部活動ガイドラインも示しました。また、共同事務室では、事務職員未配置校の支援も充実させるシステムの構築を行っています。そして、12/3、学習発表会見直しによる廃止、また、ICT環境整備も踏まえてのデモンストレーションを行いました。いの町の音楽会も中止しました。タブレット型のパソコンの導入に加えて学習支援システムも導入します。来年度4月からは給食費の公会計化にすることで学校の事務負担軽減を図ります。町外の教職員も引き落とし可能になります。学校がやらなければならない業務として、草刈り業務を委託するように考えています。予算を伴うものは、未定ではございますが計画をしています。校務支援員ですが、スクールサポートスタッフ配置の事業がありまして、いの町にも声を掛けてくださいましたので2校に配置を計画しています。4月からICT支援の配置、専門講師の派遣を考えています。環境が変化していく中で、教員のスキルアップにつながる支援員、この体制を2、3年間継続すれば、校内でOJTができる体制になると考えています。4月には集合研修も考えています。31年度中には校務系のパソコンも更新します。統合型校務支援システムの導入の研修もします。これは町立小中学校と県立高等学校を結ぶシステムです。運用開始は平成32年4月からです。メリットは指導要録のデータ化、出席簿とのリンク、さらにグループウェアの機能がありまして、教科間、校長間のネットワーク等による、指導案作成の短縮等があります。さらに教職員の勤務管理も出来利便性も高まります。業務時間の効率化が図れる予定です。既に導入されています大阪市のアンケート調査では、224.1時間の時間短縮が図れています。さらに最後に、平成28年度から実施している共同実施による事務改善の中で、教員一人当たりどれだけ短縮されたか表した表です。業務の平準化に取り組んでいただき、今年度は教材費についても、集金していた学校においても事務職員の方で引き落としにするなど教員の手間が圧縮されています。H30には年化20時間軽減されています。また、集金業務にはお知らせの通知から引き落としまでの多く

の業務がありますが、事務職員が教員の負担を軽減してあげたいという思いから、できる範囲として、それらも事務職員が行う事としまして、これは一校だけですが、年間64時間の負担軽減になっております。

土居 : 以上で事務局の説明が終わりました。何か質問がありましたらお願いします。

日向 : 吾北分校は、地域とどうつながるのが大切な事。分校との菊池実践との結びつき、そのことが保護者にいの町の吾北分校はこんな学校ですよと、保護者が考え方を変えなければならない。子どもにアピールしても親が理解していないといけない。保護者目線への売り込みが大事です。菊池学園については、素晴らしい取り組みがあるが、幼児教育における菊池実践、幼児教育ならではの取り組みが小学校へつながる、それが明確であり非常に素晴らしいと思います。昨年度から町研幼児部会でも話させていただいている。家庭教育への浸透も出来てきています。もう一つ大事なものは菊池実践の日常化です。授業ではない、全ての生活の場面で日常化すべきと思います。職員アピール、校長会への発信等あと2年なのでしっかりやらなければならない。業務改善については日本の教育は、学級担任になったら、学級のことを全てやらなければならないという伝統が残っている。補助や応援が入り少しづつは変わると思うが、担任は苦勞が多い。意識を変えなくてはならないと思っています。大きな課題です。休校のことについてはよく分かりました。日吉学園は、地元の神谷小学校との関わりがどうなるのか気になるところです。

教育長 : 菊池学園の幼児教育からの関り10の姿。具体の方向性が定まっていますが、非常に発達障害のお子さんも多くいます。学校での菊池実践は対処療法的な取り組みでして、やはり幼児期からの取り組みが大切ですが、まだ具体的には煮詰まっていますが、菊池学園の一環として取り組まなければならないという思いがあります。それから小学校担任の働き方ですが、朝から給食含めてずっと子どもさんたちに寄り添い指導をおこなっているわけですし、中々働き方改革というのは課題が多くあります。具体的にはセンターンか成のそぎ落としで別の先生にやっていただいて、担任の業務をそぎ落としていく。そして働き方改革を行う等、担当が申しました「ねばならない」かどうかの視点で引き続き取り組んでまいりたいと思っていますのでよろしくお願いします。

渡辺 : 吾北分校の今年のことですが、推薦入学で山梨県の公立大学都留文科

大学に合格を決めた学生がいます。去年は高知大学にすいせん、工科大にも推薦入学がありました。遠隔授業もあります。高知リハビリや県警、郵便局にも決まりました。そういう田舎の中で頑張っている吾北分校を地域も一緒に支援していきたいと思います。町も多くの支援をして下さって引き続きお願いしたいと思います。働き方改革については町長にちょっとお願いをしたいと思います。意見を言わしてほしいですが、長時間労働であえいでいるというのは常識として知ることになりました。いの町では平成26年の学校訪問の時から先生方の働き方が尋常ではないと野議論が始まって早や4年になりました。なかなか働き方の課題は難しくて一気に解決には至らなくて、定年で辞めていく、心身に影響がある、様々な困難がありました。段々世の中に認知され文科省も一大事と認定して、ガイドラインも出し、ついに色々な手法を出してきました。総論は出しているけれども各論が進まない。いの町の教育委員会は、現場と委員の議論の中でもなんとかしないといけないというのは分かっているけれども、具体的にどうするのか分からないというもどかしさがありました。文科省も現場も具体的な方策が出てきつつあります。先日大阪で西日本の研修会がありましたが、既に取り組んでいるところもいっぱいあります。本当は文科省が教員の増員をしてくれればいいんですがね。それから次々に打ち出してくる現場に対する提言、グローバルやら、なにやらかにやら、指導要領の改訂、道徳教育の教科化、或いは英語の小学校化。次々とかぶさってくるわけですね。学テも大きな課題です。そういった中でまだまだですが、具体的な何かが出てきています。先ほど担当から話もありましたが、黒い★印をしているところです。こういうことを今後いの町の教育委員会としては取り組んでいきたいと思っています。これがやがて予算で出てくると思います。そのところをぜひ、町長には腹を括って欲しいと思います。私が言うのもおかしいですが、ここ近年にないくらいの事務局全体の質が高いと思っています。ぜひ信じて、いの町から業務改善がこのように進んでいるという成果が出ますように、そこを特に強調してほしいと思います。

町長 : はい、予算のことがございました。これから当初予算編成に入ります。私も真に必要なものは予算化します。タブレットを購入する今回の補正につきましても、必要台数をきちんと出してくださいというやり取りがあった中で落ち着いたところです。あつたらしいなの世界はだめであり、真に必要なものを決定していきたいと思っています。教員が友人にもたくさんいます。本当にいの町でやっていかなけ

ればならないものはやっていきたいと思います。

山中 : 菊池学園のことで、10/4 に人権研修という事で菊池先生に本川中学校・長沢小学校に入ってくださいました。いの町のこんな素晴らしい取り組みをしていることを保護者に見ていただきたかったのでこの機会はとても良かったと思います。本川中学校では、何かしら課題を持たれている方も多いため、保護者の方は喜んでおられました。一人一人を大切にするという教育に感動していたと思います。それと同時にいの町はこのような教育をしています。本川中はこういう学校ですよという PR にもなったと思います。今後もぜひ来ていただけたらいいと思っています。よろしくお願いします。

岡田 : 時間が限られていますので手短かに、吾北分校の事です。いの町のこの学校を目指していく、移住定住にもリンクしますが、この学校を出たらどういう進路がありますか、どういう部活動がありますか、どういう事をやっていただけますかという事が言われます。大学・就職、場合によっては公務員というその先が見えるものであれば保護者にも考えていただけると思います。それから、部活動の育成となると、県大会は至難の粹ですが、合宿や設備、ソフト・ハード面にもなってくるので、いわゆる働き方改革に逆行するようなこともして行かなければならぬですね。以前から、池川の方は吾北へという事も言われていました。もし、バス便があれば吾北へというようなことも考えてもらえる、そのような、つてが無いので佐川へとなる。先ほど委員会の方からありましたが、発表会の廃止や音楽会の中止なども出たのですが、菊池学園の取り組み、学習指導要領からすると対話的・深い学び、となると体験学習・ディスカッションが大切。そうなるともう少し、何らかの手立てがあればいいとは思いますが。つまり子どもたちの交流・発表の場がなくなってしまう。その辺りを考えなければならないというような感想を持ちます。

町長 : 本年の採用の中に分校卒業生が居ます。分校卒業生だからというわけではないですが、評価が良かったという事です。分校の卒業生がその辺りきちんとできているのではないかと思います。やはり、推薦で都留文科大というのは優秀だなおもいます。学校の取り組みが表れているのだろうと思います。委員おっしゃられたように保護者の方に知っていただくことが大切と思えます。バスの延伸という事で、仁淀川町の町長とも話をしています。小学校の頃音楽会で伊野南小学校や川内小学校に行き色々な発見がありました。いの町内に他の学校があることを知ったりすることはいいことだと思いました。以上です。

- 教育長 : 教育委員会としましても色んなご意見を参考にしながら、子どもたちの交流の持ち方は様々な方法があると思います。子どもさんたちが本物に触れる場等を活用して、場を変えながらの交流の場を今後も増やしていきたいと思います。課題・宿題と承り、今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- 山中 : 町長にお聞きしたいのですが、本川や吾北で子育てをしたいと思う職員の方を人事異動させるとかそういう思いはないですか。
- 町長 : 異動調書でそのような事があれば、汲んでいく方向ではあります。行きたいと思いますが、やりますというのは人事ですので、この場では、なんともお答えができないところです。ぜひそう言った職員に手を上げていただきたいとは私も思っています。
- 土居 : 他にご意見ございませんでしょうか。それでは、これを持ちまして本日の会を終了したいと思います。